

本日の会長の時間は会員インタビューです。

その前に面白いデータを一つ。本年度が70周年はご存知の通り、という事は会長が70人存在しました。その内、貴重な4組、親子で会長を務められた会員がおられます。

第19代会長の阪之上健一会員と50代会長の現阪之上会員、第30代会長の福井清忠会員と59代会長の現福井会員、第34代会長の神山幸雄会員と68代会長の現神山会員、そして第36代会長の倉修会員と63代会長の現倉会員であります。ここまで現役会員に名門がご在籍下さるのは大変珍しい事で、厳密に調べたことはありませんが、よほどの古いクラブで、思いがきっちり受け継がれているクラブでなければ中々成しえないことかと思えます。

今週は、その倉会員にお話を伺いました。倉会員は大変珍しい貴重なご趣味をお持ちで、飛行機の操縦です。インタビューでの倉会員のお話によれば、ロータリーには、“フライングロータリアン”なる方々がおいでで、大阪での国際大会時（2004年）には、その専用ブースも設けられた由。前年の2003年には、ライト兄弟初飛行100周年記念イベントもパリであり、シャンゼリゼ通りに各種飛行機展示に、上空では空軍によるバトルイユ・ド・フランスの飛行もあったそうです。

倉会員個人の思い出では、ニューヨークハドソン川付近でのフライトで、その時ご覧になった夕暮れのマンハッタンの景色が忘れられないそうです。ご趣味で。乗馬位はあるかもしれませんが、飛行機の操縦とは早々おられません。ニューヨークハドソン川のフライトも夕暮れとなればさぞかし美しかった事でしょう。

わたくしにはそんなエグゼクティブな趣味も思い出もありませんが、ニューヨーク・ハドソン川と言えば、2001年7月にニューヨーク出張中に独立記念日を楽しみ、そのイベントのせいでメーカーキャップが出来ず、世界中あちこちでメーカーキャップした身としては、ニューヨークでメーカーキャップし損ねている事が残念でなりません。もっと残念なのは、それ以上に、出張から帰国後わずか一か月足らずで9.11同時多発テロが起きた事（出張時にお話しした方が2名WTCで亡くなりました）、それから19年又、このコロナ禍で惨状が続いている事です。

一日も早く、倉会員がフライトでご覧になったその豊かできらびやかで憧れのマンハッタンが戻ってきて欲しいものです。

以上、倉会員へのインタビューでした。
本日はこれにて、おやかましゅうございました。

2020年10月15日第十四例会 会長の時間にて 東野裕暢